

267 号

9 月例会のお知らせ

- 日 時 : 9 月 25 日 (日) 越前市出発は 7 時半
 集合場所と時間 : 越前市文化センター前 / 17 時 50 分頃帰着
 福井駅東口 8 時 / 17 時 20 分頃帰着
 内 容 : 富山県高岡市へのバス旅行
 現在、47 億 5 千万円をかけて平成の大修理
 が行われている重要文化財・勝興寺の見学。
 伏木北前船資料館見学。重要伝統的建造物群
 保存地区・金屋町、山町筋の散策など。
 費 用 : 5,000 円 (ランチ、拝観料等を含む)
 申し込み : 9 月 21 日までに。090-6270-5547 (三木)
 大きい方の中型バスですので、定員は 29 名

■今年の夏は、熱中症がよく注意されるほど暑い日が続きました。その後秋めいて夜風が涼しいのを通り越して肌寒い程に感じられていましたのに、ここ数日の日中の暑さはまたもや 30 度を上回っています。一旦涼しさを感じてから後のぶり返した暑さは、何とも言えない疲労感を伴うものです。でももうしばらくの辛抱。今月 17 日は中秋の名月で、澄み渡る夜空に満月が輝き、ススキの穂が揺れ、萩が咲き、虫の声が競い合うことでしょう。

■さて、今月の例会は上記のように、高岡へ行きます。勝興寺は蓮如上人が越中の布教の拠点として開山した寺院で、広大な境内には重要文化財に指定されている本堂と 11 棟の建造物が建っています。どの建物も 200~300 年経過しているため損傷、破損が甚だしく、平成 10 年から 23 ヶ年計画で保存修理事業が進められています。平成 16 年に第 1 期事業として、本堂の修復が完工しました。現在は第 2 期修理工事として、11 棟の工事が行われていますので、その過程を見学させていただきます。

わが会員の直井光男棟梁が、勝興寺修復を指揮しておられる田中健太郎棟梁に頼んで下さったお陰で、田中棟梁自らご説明いただけるという幸運に恵まれることになりました。

勝興寺の境内は奈良時代の越中の国府の所在地で、万葉の代表的な歌人大伴家持が 5 年間 (746~751 年) この地に赴任しました。余談になりますが、越中国府で、家持とは従兄で、上司、部下の関係にあった大伴池主が、その後越前の国府に赴任しますが、家持と池主の間に交わされた、まるで恋歌かと思われるような歌が何首も残っています。「われのみし聞けばさぶしもほととぎす丹生の山辺にい行き鳴かなも / 大伴家持」「桜花今ぞ盛りと人は言へど我はさぶしも君としあらねば / 大伴池主」

■勝興寺のある高岡市伏木古国府に、伏木北前船資料館がありますので、そこも見学しましょう。文化年間に海運を生業とした旧家秋元家を博物館にしています。明治 20 年の大火で焼失しましたが、その後元通りに建て直され、高岡市指定文化財になっています。なお土蔵は江戸時代後期まで建築年代が遡られるそうです。

■高岡には重要伝統的建造物群保存地区が二ヶ所あります。山町筋は、商都高岡の繁栄を支えてきた商人町で、明治中期から大正、昭和初期に建築された建物がのこっています。金屋町は、高岡鋳物の発祥地で、鋳物師の集住する、江戸期から昭和初期に建てられた町家が残る日本でも珍しい町並みと言えるでしょう。